

マタイ

15

神の国と 神の義を

マタイ福音書6章24～34節

山上の説教⑧ 神か 富か

Shikaoichurch.com

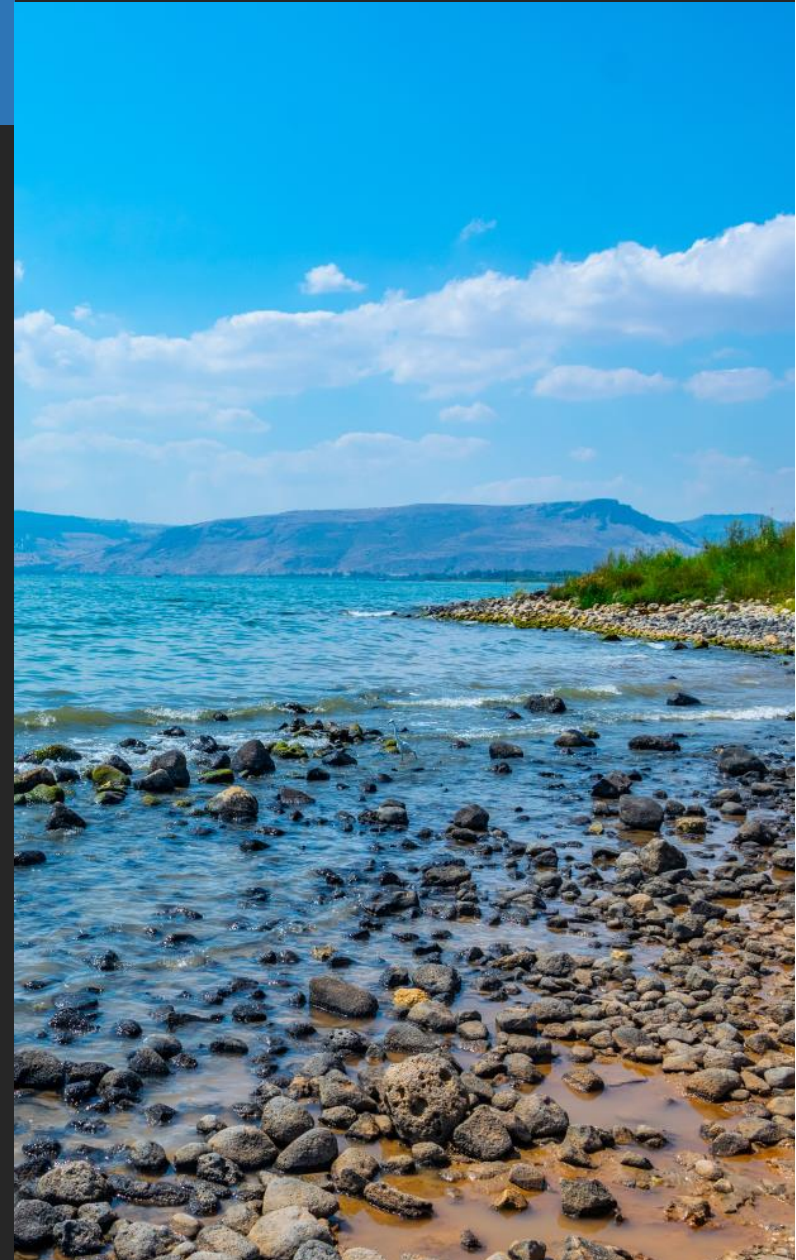
アウトライン

0. イントロダクション

I. 神か 富か マタイ6:24～34

II. まとめと適用

神の国と神の義を





0. イントロダクション

ガリラヤ湖

メシアによる宣教は開始された

■ マタイ福音書4:17

この時からイエスは宣教を開始し、

「悔い改めなさい。天の御国が近づいたから」

と言われた。

**イスラエルに生まれたメシアだけが、
神との平和を地上にもたらされる**

メシアの生涯

宣教 → 拒絶 → 弟子訓練 → 十字架へ



最後の晩餐

エルサレム入城

最後の弟子訓練

山上の変容

ペトロの信仰告白

五千人の食事

たとえ話

ベルゼブル論争

安息日(律法解釈)論争

メシア的奇跡

宣教開始

弟子の召命

荒野の誘惑

バプテスマ



山上の説教とは？ マタイ5～7章

- ガリラヤ湖畔で語られた、イエスの説教集。
➡ 丘の上、もしくは湖面(ルカ6章)から
- パリサイ派の「口伝律法」の間違いを指摘。
神の「律法」の真の意味と適用を教えられた。
➡ 十字架以前のこの時点は、**律法の時代**
- 「山上の説教(垂訓)」とは、
➡ メシアによる直々の**律法解釈!!**
➡ **イスラエル**に向けて語られた



旧約聖書の
文脈が重要

メシアによる律法解釈

- 聖書預言の完全な成就として来られたメシアは、完全に完璧に、聖書全体を理解、把握されていた。
- 山上の説教は、完全な教師による、完璧な聖書の解き明かし。

聖書全体が凝縮されたメシアの解き明かしに心傾けよう



Ⅰ. 神か 富か マタイ福音書6章24～34節

ガリラヤ湖

主題 神か富か マタイ6:24

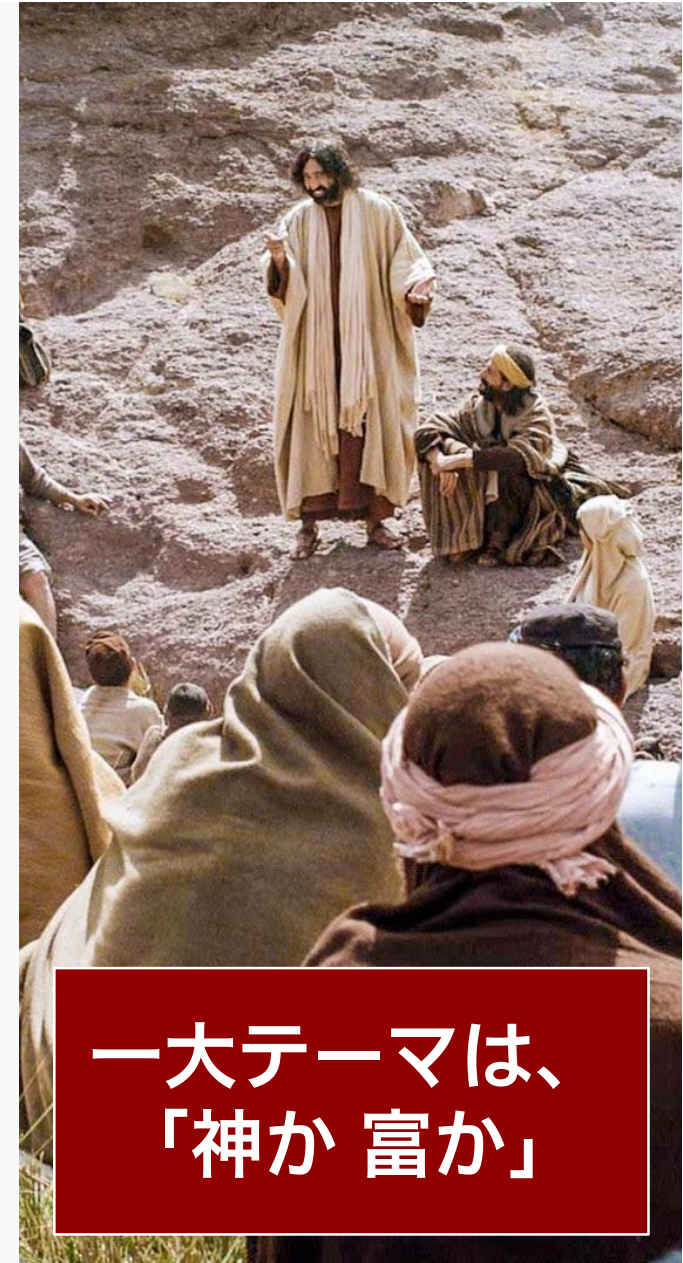
だれも二人の主人に仕えることはできません。
一方を憎んで他方を愛する*ことになるか、一方を重んじて他方を軽んじることになります。あなたがたは神と富とに仕えることはできません。

*憎しみ(拒絶)も、愛(需要)も、選択、決断。

■主イエスが求める選択と決断 ルカ14:26

「わたしのもとの来て、自分の父、母、妻、子、兄弟、姉妹、さらに自分のいのちまでも憎まないなら、わたしの弟子になることはできません」

■24～34節の主題が、「神か。富か」の選択



一大テーマは、
「神か 富か」

展開

優先順位 マタイ6:25

ですから、わたしはあなたがたに言います。何を食べようか何を飲もうかと、自分のいのちのことで心配したり、何を着ようかと、自分のからだのことで心配したりするのはやめなさい。いのちは食べ物以上のもの、からだは着る物以上のものではありませんか。

■ 信仰者に求められる優先順位

①神 > ②命・体 > ③食べ物・着る物

■ 価値の低いものに振り回される倒錯にこそ、人の罪が現れている。



例話① 空の鳥 マタイ6:26

空の鳥を見なさい。種蒔きもせず、刈り入れもせず、倉に納めることもしません。それでも、あなたがたの天の父は養ってくださいます。あなたがたはその鳥よりも、ずっと価値があるではありませんか。

■ 苦労なく、作物を食べる鳥の姿に重ねて。

➡ 労しない鳥すら主は養われる。

➡ ましてや、労する人は主が報われる



例話② 野の花 マタイ6:27

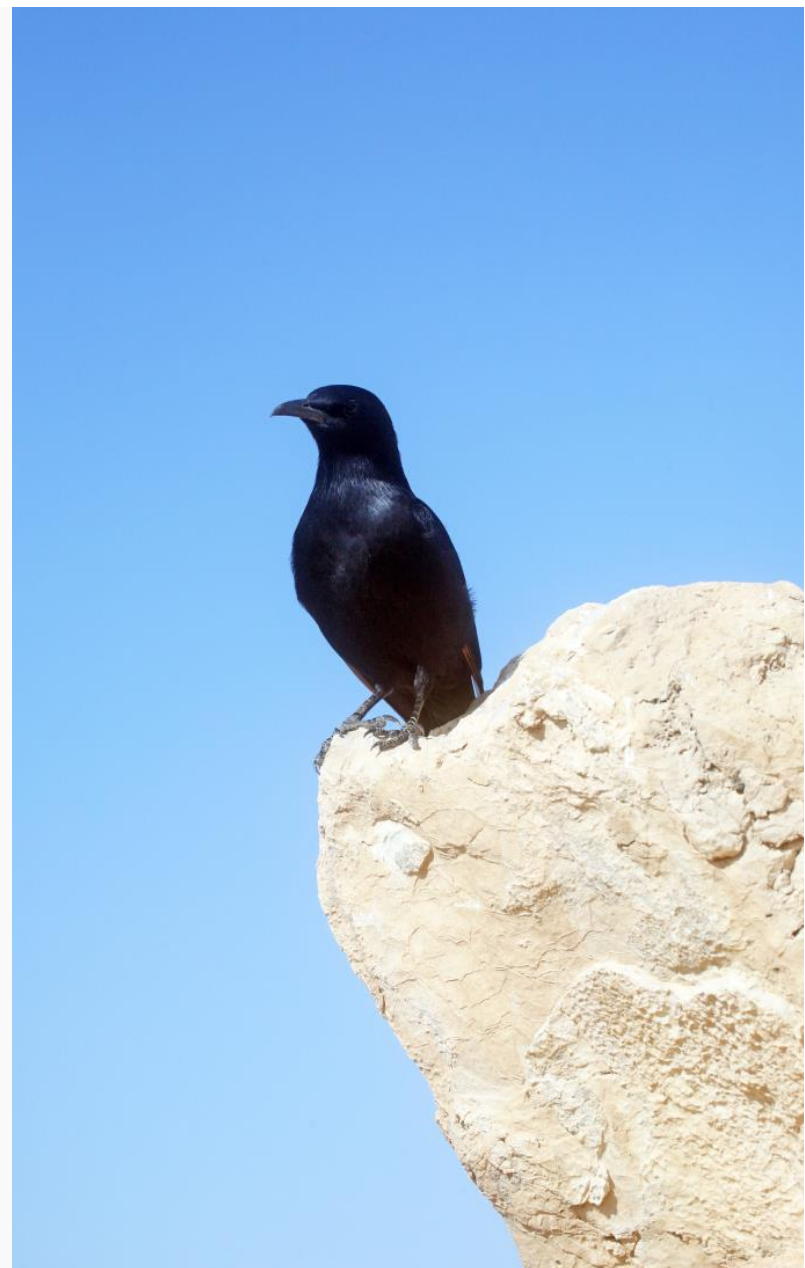
あなたがたのうちだれが、心配したからといって、少しでも自分のいのちを延ばすことができるでしょうか。

■ 極論？ これが真実!!

■ 一羽の雀の命も、髪の毛一本も、
神のゆるしなしに落ちることはない。

(マタイ10:29～30)

生殺与奪の主権は、神にある!!



例話② 野の花 マタイ6:28～29

なぜ着る物のことで心配するのですか。野の花がどうして育つのか、よく考えなさい。働きもせず、紡ぎもしません。

しかし、わたしはあなたがたに言います。
栄華を極めたソロモン*でさえ、この花の一つほどにも装っていませんでした。

*イスラエル最盛期。銀は価値がなかった。

神殿建設には最高の職人が結集。Ⅱ歴9:20

■ 人の手の技は、創造者に全く及ばない。



岩間に咲くアネモネ

例話② 野の花 マタイ6:30

今日あっても明日は炉に投げ込まれる野の草*
さえ、神はこのような装ってくださるのなら、
あなたがたには、もっと良くしてくださらない
でしょうか。信仰の薄い人たちよ。

＊乾期の熱風は、たちまち草を枯らす。

野を覆う枯草は、焚きつけに使用された。



乾期のガリラヤ

例話の結論 異邦人の求め マタイ6:31～32

ですから、何を食べようか、何を飲もうか、何を着ようかと言って、心配しなくてよいのです。

これらのものはすべて、異邦人が切に求めているものです。あなたがた*にこれらのものすべてが必要であることは、あなたがたの天の父が知っておられます。

*神の民・イスラエル

- イスラエルを養って来られたのは主なる神。
…エジプト、荒野、約束の地、離散の地でも。
- ➡ 土地と繁栄を、一方的にアブラハムに約束



信仰の原則 神の国と神の義 マタイ6:33

まず**神の国***と**神の義***を求めなさい。そうすれば、これらのものはすべて、それに加えて与えられます。

＊メシアがもたらす**神の王国**

＊メシアによる**裁き・統治**(詩編50:6)

■ 神の国と神の義を求めるとは？

① 当時は、イエスをメシアと信じること

② 今は、王なるメシアの再臨を求めること

■ 恩恵を受ける必須条件 → 福音を信じる



福音を信じ、主の再臨を求めるなら、信仰者の必要は満たされる

メシアがもたらす神の義

■詩編50:3～6

私たちの神は来られる。黙ってはおられない。
御前には食い尽くす火があり その周りには激しい嵐がある。
神は上なる天を また地を呼び集められる。
ご自分の民をさばくために。

「わたしにある敬虔な者を わたしのところに集めよ。
いけにえによって わたしと契約を結んだ者たちを。」
天は**神の義**を告げ知らせる。神こそが審判者であると。

究極の裁きは、艱難期に、再臨のメシアによってもたらされる

励まし

心配無用 マタイ6:34

ですから*、明日のことまで心配*しなくてよいのです。明日のことは明日が心配*します。苦労はその日その日に十分あります。

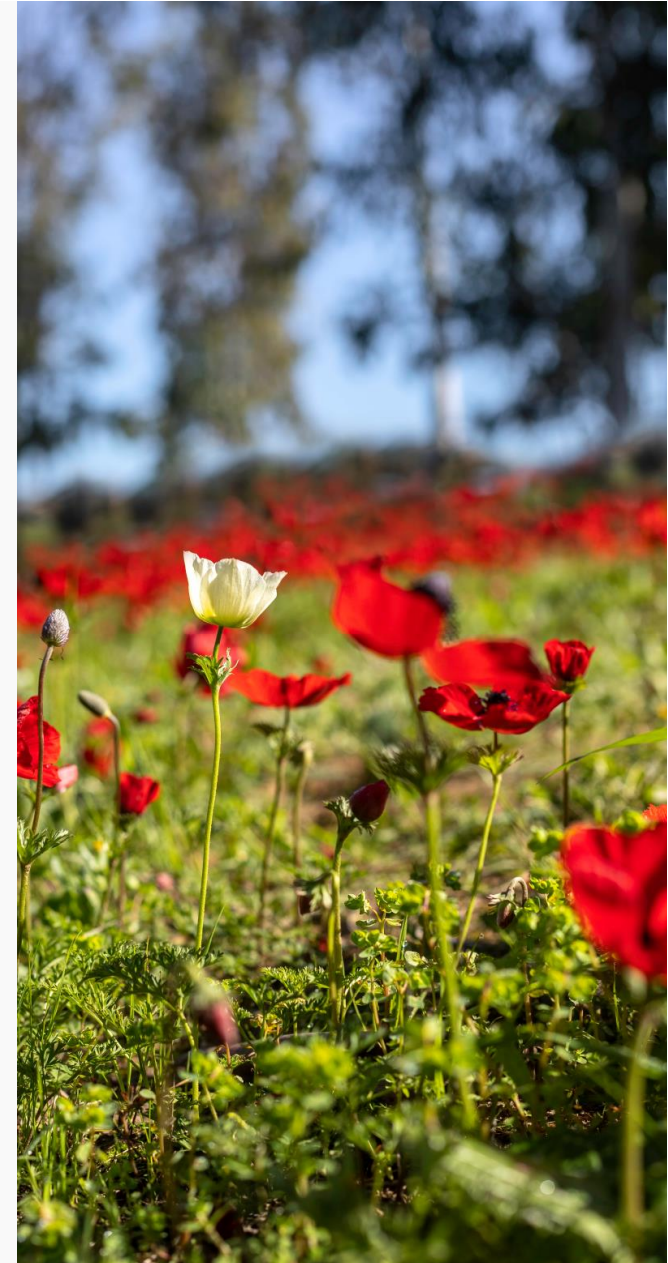
*神の国と義をもたらす主を信頼するならば

*心配…主以外に心捕らわれた状態、不信仰。

➡荒野でイスラエルが犯した罪の原因の一つ。

「人を富ませるのは【主】の祝福。人の苦労は何も増し加えない。箴言10:22」

「苦労する者は食欲のために働く。その口が彼を駆り立てるからだ。箴言16:26」





Ⅲ. まとめと適用

神の国と神の義を

野に咲くアネモネ

「富」とは？

「だれも二人の主人に仕えることはできません。一方を憎んで他方を愛することになるか、一方を重んじて他方を軽んじることになります。あなたがたは神と**富***とに仕えることはできません。6:24」

*“マモナス” …4回のみ。マタイ6:24(並行記事ルカ16:13)、
ルカ16:9,11(「不正な富で…」)

■神がもたらす「富」は、別な言葉で示される ➡「プルートゥ」…22回
「その慈愛と忍耐と寛容との**富**を軽んじるのか(ロマ2:4)」

■主の言われる「**富(マモナス)**」とは？ ➡神に反するものすべて

神に反する「富(マモナス)」とは？

■ 神に反する富(マモナス)は、神に反するものすべて

■ 神に反するもの …罪、死、偶像、貪欲、嘘、偽善、不信仰
→ 神に反する側にいるのは、不信仰者。
その背後には、悪魔、悪霊。

■ 神に属するもの …命、永遠、栄光、祝福、真理、真実、信仰

主に従うのか。主に反する富に従うのか。二つに一つ!!

救いの意味を確認しよう!!

■エペソ2:1～5

さて、あなたがたは自分の背きと罪の中に死んでいた者であり、かつては、それらの罪の中にあってこの世の流れに従い、空中の権威を持つ支配者、すなわち、不従順の子らの中に今も働いている霊に従って歩んでいました。

私たちもみな、不従順の子らの中にあって、かつては自分の肉の欲のままに生き、肉と心の望むことを行い、ほかの人たちと同じように、生まれながら御怒りを受けるべき子らでした。

しかし、あわれみ豊かな神は、私たちを愛してくださったその大きな愛のゆえに、

背きの中に死んでいた私たちを、キリストとともに生かしてくださいました。あなたがたが救われたのは恵みによるのです。

救いの意味を確認しよう

■ 背きと罪に死んでいた者が、福音の恵みによって救われた。
聖霊の証印が押され、完全に、永遠に、神の所有とされた。

【大前提】 …私も、私の所有するものも、すべては神のもの。

神の所有である私自身をささげる ➡ 霊と真実の礼拝

※ 献金や礼拝での奉仕は、その一部にすぎない

■ 私の命も体も神のもの ➡ 神が養ってくださる

力も富も時間も、安心して、神にささげていけばいい。

心配・不安の根にあるもの

■ 心配、不安、思い煩いは、一言で言えば、不信仰。信頼の欠如

➡ 神への背きと罪から発生。背後の不信仰が何より問題。

例) アブラハムの偽り、父イサクをだましたヤコブ、
ソロモンの政略結婚がもたらした偶像礼拝…etc

■ 心配、不安、思い煩いの抜本的解決の道はただ一つ

➡ 私の罪を贖われた、主イエスを信頼すること

私のすべては、永遠に完全に、主の所有とされた。

救いの確信の深まりが、平安をもたらす

信仰の劣等感に注意しよう!!

- 「私なんて…」と、他者と比べて劣等感に落ちこんでしまう。
➡劣等感も、心配、不安から生じるもの。根は同じ。
- 問われるのは、主の恵みに生きているのかどうか？
➡資格のない者が、救われ、用いられる。
例)パウロが「罪人のかしら」と自称。謙遜じゃない。そのまま。
- 恵みによって救われたにすぎない者が、なぜ劣等感を抱く？
クリスチャンの劣等感は、無意味どころか、不信仰、傲慢。
➡ダメなやつ(or 私はできる) ➡自分で自分を判断、裁いてる

私の側に価値などない、主が注がれる恵みが私のすべて!!

救いの確信を深めるために!!

信仰者は、
行動の人！

■ 不安の克服、平安を得るために必要なことは？

➡ 具体的な行動をもって、主への信頼を示すこと!!

例) 湖に踏み出したペテロの信仰

■ 「祈ってます」 言葉だけの祈りをどれだけ重ねても…。

➡ アブラハムは旅だった。イスラエルは海を渡った。

ダビデは巨人と戦い、ソロモンは神殿を建てた。

■ 具体的に遣わされて行くところに、祝福と平安がある。

例) 宣教旅行の恵み。踏み出せば、結果として必要も満たされる。

★ 神の国と神の義を ★

「まず神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはすべて、それに加えて与えられます。マタイ6:33」

- メシアの再臨、裁き、統治を求め、福音宣教に遣わされよう。
福音を信じて救われた者だけが、神の国と義を得るのだから。
- 命も富はすべて主のもの。主のために用いられるべきもの。
私自身を主の使命にささげるなら、必要はすべて満たされる。

ただ主を信頼して、神の国と神の義を求めていこう!!

てん　とう
「天のお父さま。わたしの^{つみ}罪をゆるしてください

わたしは、神の^{かみ}み子^こイエス・キリストが、

①わたしの^{つみ}罪^{あがな}を^{あがな}贖^{あがな}うために^{じゅうじか}十字架^しで死に、

②^{はか}墓^{ほうむ}に^{はか}葬^{ほうむ}られ、

③^{みっかめ}三日目^{ふっかつ}に^{ふっかつ}復活^{しん}した^{しん}こと、を信^{しん}じます。

^{わたし}私の^{えいえん}すべては、永^{えいえん}遠^{しゅ}に^{えいえん}主^{しゅ}のものとされました。

^{しゅ}主^{しゅ}のものとされた^{わたしじしん}私^{しゅ}自身^{しゅ}を、主^{しゅ}よ、あなたにおささげします。

^{ひつよう}必要^{しゅ}はすべて、主^{しゅ}が^み満^みたしてくださいます。

ただ^{しゅ}主^{しんらい}に信^{しん}頼^{らい}し、神^{かみ}の^{くに}国^{くに}と義^ぎを^{もと}求^{もと}めます。私^{わたし}を^{つか}遣^{つか}わしてください。

^{しゅ}主^{しゅ}イエス・キリストの^なみ^い名^いによって^い祈^いります。　アーメン」